99. 全般照明の配置による鉛直面照明効果について

小 泉 実 新 明 誠 (日立照明株式会社)

1. はじめに

店舗売場、ギャラリー、応接室、ショールームなどは、被照面の主体が室内の鉛直面（壁面）にある。

全般照明によって、均斉度の良好な水平面照度を得ると同時に壁面も十分な輝度を得ることを目的とし、これを立体モザイクを利用した視覚情報で、伝達すべきニーズが生じたので検討を試みた。

2. 立体モザイク照度分布の表現で適所に適光を適用することの検討

全般照明で照明のレイアウトをする場合、単独、ライン、格子、口の字等種々の方式がある。

照明を均等に配置すると、一般には室中央部が最も明るくなる。

水平面照度の均斉度を良好に維持しながら、壁面が十分な鉛直面照度を得る要求に対して、誰でも照度の分布状況を容易に判断できるこの立体モザイク照度表現方法を活用して、これに応えた。

鉛直面照度が要求される全般照明の種々の配置に対して、水平面および鉛直面（壁面）ともに、この立体モザイクで表現した事例を斜視図で紹介する。

室内の明るさ感、内装仕上げ材の反射率などで決定される輝度や仕上がり色、光源色の効果的出会いに影響される。

照明のグレア防止などの質的な面よりも商品の材質感や色等がよく認識でき、明るい鉛直面によって見えかたを向上させる適所適光によって、省エネルギーの実現にもつながる。

Lighting effect on vertical plane in the room under the influence of general lighting.

Minoru Koizumi and Makoto Shinmyo

図1. 鉛直面を明るく保つために

図2. 立体モザイク表現による水平面照度分布図

図3. 全般照明器具の配置

図4. 鉛直面照度分布

図5. 鉛直面を明るくした施設例